

令和3年度東京グリーンボンド対象事業への資金充当結果について

令和3年度に総額401.07億円で発行した「東京グリーンボンド」の資金使途対象となる事業における充当結果を取りまとめましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

No	事業名	東京グリーンボンド 環境事業区分 (別添参照)	充当結果 (百万円) ※1	想定される 環境効果 ※2
1	都有施設の改築・改修 (太陽光発電設備の導入・緑化整備)	1.スマートエネルギー都市づくり	7,140 (9,140)	■太陽光発電設備の想定 年間発電量 (年計) <u>491,982kWh</u>
		3.自然環境の保全	3,850	■緑化面積の拡大 <u>9,023</u> m <sup>2</sup>
2	都有施設・道路の照明の LED化	1.スマートエネルギー都市づくり	2,020 (2,060)	■エネルギー削減量 (年計) <u>4,364,077kWh</u>
3	上下水道施設の省エネ化	1.スマートエネルギー都市づくり	2,300	■発電量(売電含む) (年計) 386,000kWh ■エネルギー削減量 (年計) 943,000kWh ■温室効果ガス削減量 (能力値) 3.3万t CO <sub>2</sub> /5年(R7年度末まで)
4	自転車走行空間の整備	1.スマートエネルギー都市づくり	40 (150)	■整備延長 サイクリングルート 11.5km 整備 (R6年度末まで)

No	事業名	東京グリーンボンド 環境事業区分 (別添参照)	充当結果 (百万円) ※1	想定される 環境効果 ※2
5	公園の整備	3.自然環境の保全	1,800	■整備面積 48,715 m <sup>2</sup>
6	水辺空間における緑化の 推進	3.自然環境の保全	250	■整備面積 <u>5,055</u> m <sup>2</sup>
7	ヒートアイランド現象に 伴う暑熱対応（遮熱性・ 保水性の向上）	4.生活環境の向上	<u>1,107</u> (1,000)	■遮熱性・保水性舗装の 整備延長 <u>13.0</u> km
8	環境にやさしい都営バスの導入	4.生活環境の向上	2,700	■排出ガス規制対象物質 削減率 NOx（窒素酸化物） <u>80</u> % PM（粒子状物質） <u>63</u> %
9	合流式下水道の改善	4.生活環境の向上	450	■貯留施設等の貯留量 175 万 m <sup>3</sup> （R7 年度末 まで）
10	浸水対策	5.気候変動への適応	2,550	■下水道 50 ミリ浸水解 消率 73%（R7 年度末ま で）
11	中小河川の整備	5.気候変動への適応	12,700	■河川の整備率 <u>68.0</u> % ■調節池の貯留量 1,056,500 m <sup>3</sup> （R7 年度 末まで）
12	高潮防御施設の整備	5.気候変動への適応	1,000	■整備延長 防潮堤 <u>0</u> km 護岸 0.05km

No	事業名	東京グリーンボンド 環境事業区分 (別添参照)	充当結果 (百万円) ※1	想定される 環境効果 ※2
13	東京港・島しょ海岸保全施設整備 事業	5.気候変動への適応	<u>2,200</u> (3,900)	<b>■整備規模及び施設数</b> 東京港の防潮堤 <u>57.9</u> km 整備 東京港の水門 15 施設整備 東京港の内部護岸 <u>36.9</u> km 整備 東京港の排水機場 4 施設整備  伊豆諸島の海岸保全施 設 0.4 k m整備済
合計※3			<u>40,107</u>	

※1 資金充当額は、執行状況などを総合的に勘案して決定した、令和3年度決算値です。令和3年9月3日付「令和3年度東京グリーンボンド対象事業の決定について」（以下「対象事業の決定」という。）における充当予定額からの増減があった事業には、括弧書きにより当初の数値を示しております。

※2 環境効果は、令和3年度末時点において各事業の実施により得られた、または得られると想定される環境への好影響のことであり、「対象事業の決定」から数値等の変動があったものは、下線を付しております。

※3 資金充当額の合計は、円貨建による発行額（300億円）と外貨建による発行額（100億円相当として発行）を条件決定時の為替レートで換算した金額（101.07億円）を合算した額です。

以上

別添：「東京グリーンボンド」における環境事業区分

【問い合わせ先】  
 財務局主計部公債課  
 直通 03-5388-2682

## 東京グリーンボンドにおける環境事業区分

東京都環境基本計画に基づき設定した環境事業区分及び当該環境事業区分ごとの東京グリーンボンドの対象事業例と想定される環境効果は下表のとおり。

No	環境事業区分	対象事業の例示	想定される環境効果
1	スマートエネルギー都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業所における温室効果ガス削減</li> <li>■ 省エネルギー対策・エネルギーマネジメントの推進</li> <li>■ 次世代交通導入、自転車利用促進</li> <li>■ 再生可能エネルギー（太陽光、地熱、水素及び下水熱等）利用率向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CO<sub>2</sub>排出量の低減</li> <li>■ エネルギー使用量の削減</li> <li>■ 再生可能エネルギー利用量の増加</li> </ul>
2	持続可能な資源利用・廃棄物管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 資源ロスの削減、環境に優しい素材の利用</li> <li>■ 3R、廃棄物の循環利用促進</li> <li>■ 環境負荷の低減に役立つ資材の使用促進</li> <li>■ 有害廃棄物等の処理促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CO<sub>2</sub>排出量の低減</li> <li>■ 廃棄物排出量の低減</li> <li>■ 廃棄物循環量の増加</li> </ul>
3	自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緑の創出・保全（公園整備、都市の緑化推進及び森林整備等）</li> <li>■ 生物多様性の保全（海上公園の干潟整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 緑地面積の拡大</li> <li>■ 整備面積の拡大</li> </ul>
4	生活環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水質汚染の軽減、地下水の保全</li> <li>■ 大気汚染の軽減</li> <li>■ 土壌汚染対策の推進</li> <li>■ 道路整備（遮熱性・保水性対策）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大気・水質・土壌汚染の改善</li> <li>■ 遮熱性・保水性の向上</li> </ul>
5	気候変動への適応	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 都市の気温上昇に対する適応</li> <li>■ 洪水や自然災害への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 気温上昇に対する適応能力の向上</li> <li>■ 洪水や津波、その他の自然災害への対応能力の向上</li> </ul>